

は　じ　め　に

わが国経済の発展は生活水準の向上を、科学の発達には医学の進歩をもたらした。健康で文化的な生活が保障されてきました。

しかし、近年、老年人口の増加、疾病パターンの変化、衣食住の多様化、環境汚染の広域化複雑化に伴い、保健衛生上の諸問題が提起されるようになりました。

これらの問題解決にあたっては、諸対策の推進はもとより、未然防止の立場から、先行的な調査研究に基づく早期予見への重要性が強く叫ばれているところであります。

この意味からも、衛生研究所の果たすべき役割はますます重大になってきたと言えます。

当所では、昭和52年以来、全国に先がけ、新生児・乳児に対する小児がん神経芽細胞腫及び先天性副腎皮質過形成などのマス・スクリーニングを実施し、その成果は国の内外から高く評価されています。

今後とも、市民のニーズに対応する調査研究を積極的に推進するとともに、情報の収集、高精度分析機器の整備拡充、技術者の育成に努めていきたいと考えております。

われわれの長年の念願であります衛生研究所の移築については、当所での諸作業が着々と進められ、計画の最終段階に入ってきております。150万都市さっぽろにふさわしい衛生研究所の建設には、多くの関係者の協力を得ながら、最大の努力を傾けていく所存であります。

最後に、皆様方の一層のご鞭達とご指導をお願い申し上げるとともに、この冊子がいささかなりとも関係者各位の方々に役立つことがあれば望外のよろこびであります。

昭和59年11月

札幌市衛生研究所長

高　杉　信　男